

経営比較分析表（令和3年度決算）

岐阜県土岐市 土岐市立総合病院・駄知診療所

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	25	対象	ド透訓	救 臨 輪
人口(人)	建物面積(mf)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
56,547	23,807	非該当	非該当	7:1

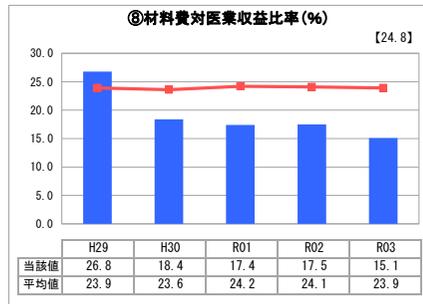
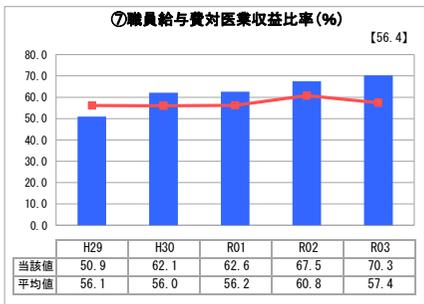
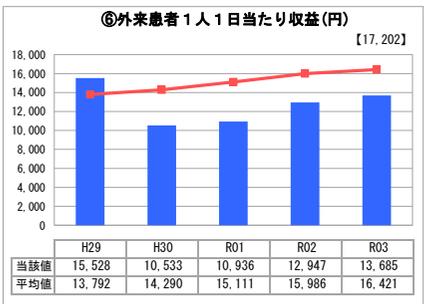
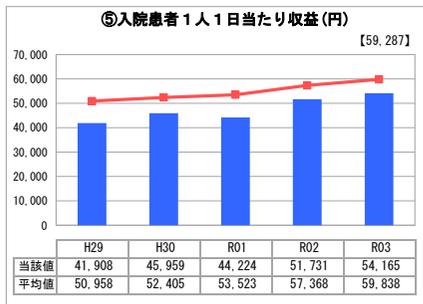
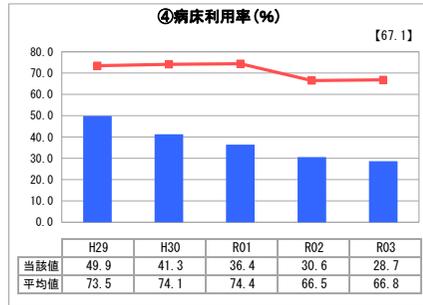
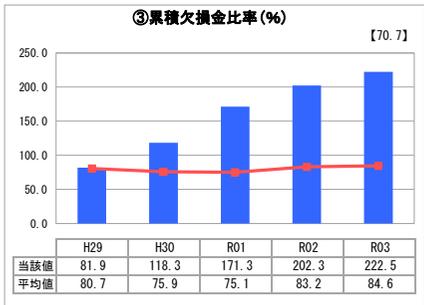
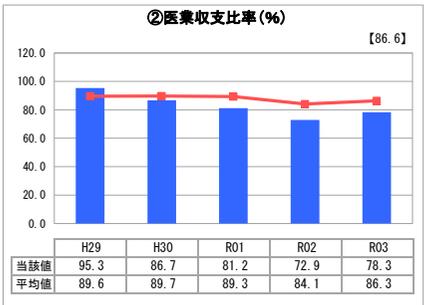
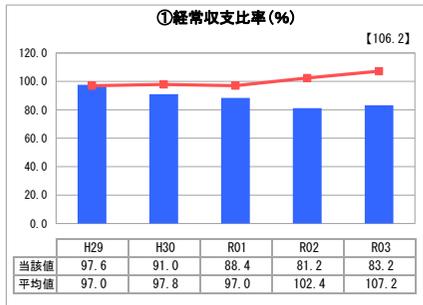
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

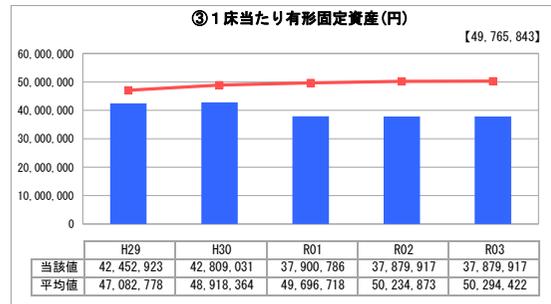
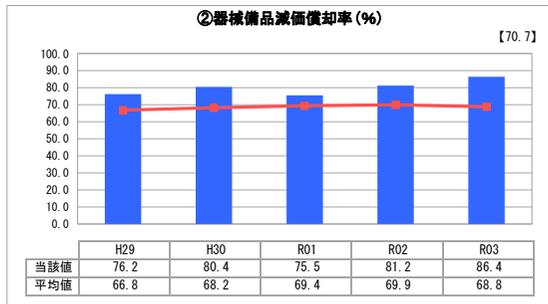
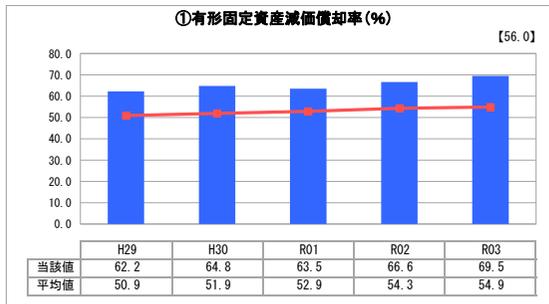
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
350	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	350
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
151	-	151

グラフ凡例		
■	当該病院値(当該値)	
—	類似病院平均値(平均値)	
【	令和3年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	令和2
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

土岐市病院事業は、土岐市立総合病院、老人保健施設やすざぎ、駄知診療所、訪問看護ステーションとよきから構成される。土岐市立総合病院はその中心を担い、土岐市及び瑞浪市の二次救急医療圏の基幹病院として、地域の急性期医療、救急医療を担い、回復期医療にも対応し、医療を提供し続けている。
新型コロナウイルス感染症流行禍においても、院内クラスターを出すことなく、検査体制を整え、陽性患者の受け入れを行っている。
また、脳卒中センターは、24時間365日いつでも患者を受け入れられる態勢を整えており、脳卒中治療に力を入れている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルスの影響による行動制限が緩和されたことで、一部の診療科では患者数が増加した。また、正規医師を迎え入れることができた診療科もあり、患者数や収入の増加につながった。
しかし、別の診療科では、前年度末に常勤医師が退職したことで、入院患者を診ることができなくなった。それが大きく影響し、全体では入院、外来ともに患者数は減少した。
結果、①経常収支比率や②医業収支比率が表すように、当院の水準は、類似病院や全国平均を下回っている。また、④病床利用率は右肩下がりとなり、厳しい状況が続いている。

2. 老朽化の状況について

令和7年度に隣接市内の二次病院と一病院化し、新たな病院を開院する予定である。その際に施設を一新するため、医療器械の取得や施設更新等は最低限に控えている。
土岐市立総合病院は開院から30年以上を経過し、耐用年数を超えるも、使用を続けている資産が多い。老朽化が進んだ機器は、更新ではなく修繕することで、長い期間使い続けている。
そのため、①有形固定資産減価償却率や、②器械備品減価償却率は、全国平均を上回っている。また、③1床当たり有形固定資産のように、投資は全国平均より低い状況となっている。

全体総括

土岐市は住民にとって医療サービスの提供体制を安定的かつ中長期的に確保する観点から、隣接する瑞浪市の二次病院と一病院化し、令和7年度に新病院の開院を予定している。その準備段階として、令和2年度から指定管理者制度を導入し、一病院化する二次病院と同じ管理者による運営や経営を行っている。
新型コロナウイルスに対して、前年度に引き続き、検査体制や感染症患者等の受入体制を整えている。県や医師会と連携しながら、地域の感染症対策活動を実施している。
今後も当地域において長期的に医療を提供できる体制づくりを進める。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。